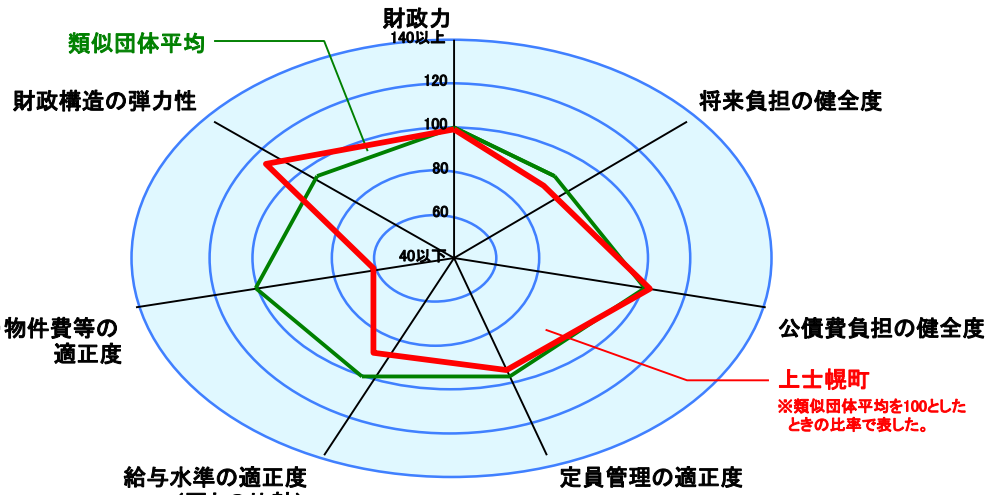


市町村財政比較分析表(平成18年度普通会計決算)

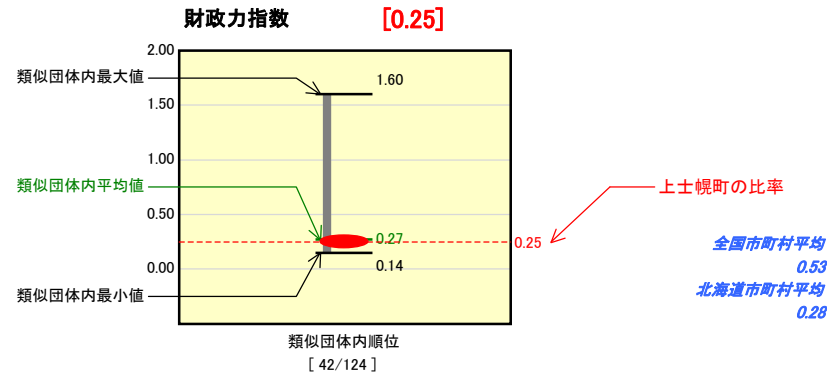
北海道 上士幌町

人口	5,382	人(H19.3.31現在)
面積	694.09	km ²
歳入総額	6,004,529	千円
歳出総額	5,862,093	千円
実質収支	109,817	千円

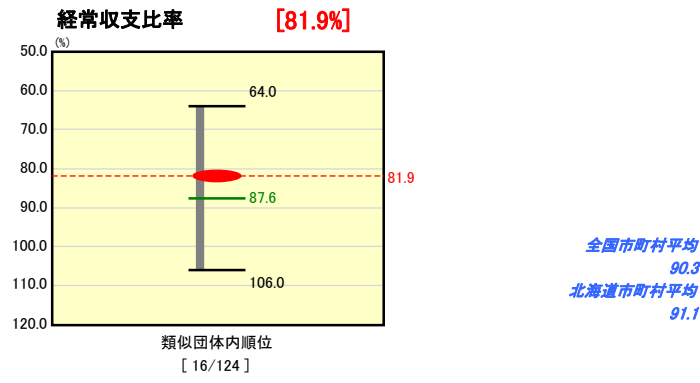


※類似団体とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類した結果、当該団体と同じグループに属する団体を言う。

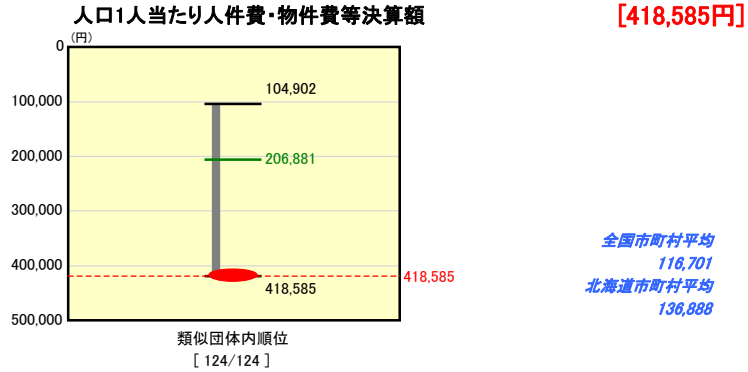
財政力



財政構造の弾力性

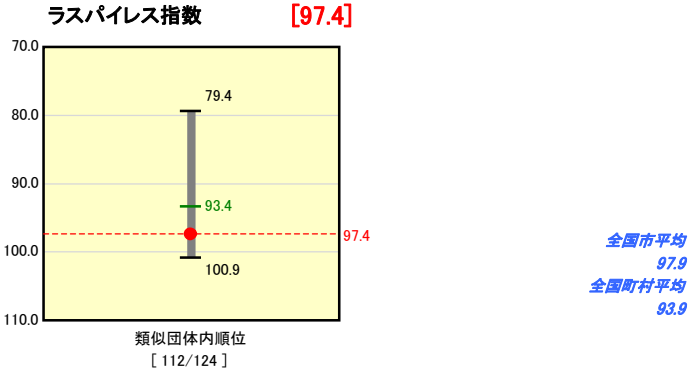


人件費・物件費等の適正度

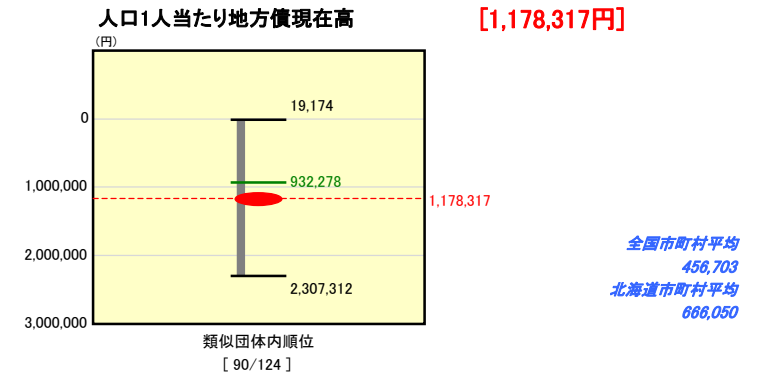


※人件費、物件費及び維持補修費の合計である。ただし人件費には事業費支弁人件費を含み、退職金は含まない。

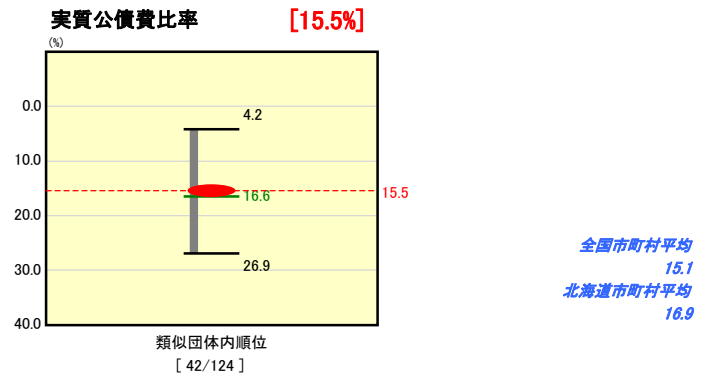
給与水準の適正度 (国との比較)



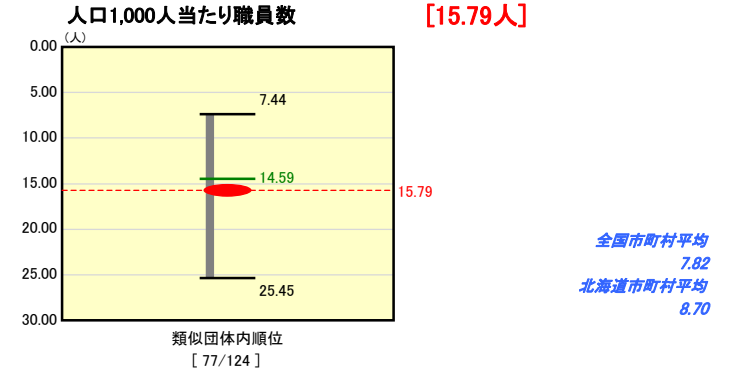
将来負担の健全度



公債費負担の健全度



定員管理の適正度



分析欄

財政力指数: 町民税の増加等により収入額が増増となり、人口減の影響で需要額が減少しているため、指数が若干上昇したが、依然として類似団体平均とほぼ同率の低い数値で推移している。地域住民との協働によるまちづくりを進め、少ない経費で効率的な行政運営をすることで、財政力の強化を図る。

経常収支比率: 物件費が大幅な増額となったが、公債費の減額等により経常的経費はほぼ横ばいである。しかし、普通交付税及び臨時財政対策債が減少したことにより前年度から2.0%ポイント上昇した。類似団体平均を下回る比率で推移してきてはいるが、今後も普通交付税の減額が続き、比率が上昇することが懸念される。行革等により経常経費の抑制を図ってきているが、交付税の減額幅に追いつかないのが現状である。今後も引き続き、経費の削減を図り、収支の確保に努め、比率上昇の抑制に努める。

ラスパイレス指数: 平成19年度より年功的な要素が強い給与構造から職務・職責に応じた給料とするため給与構造の見直しを実施している。今後においても、より一層の給与と職員数の適正化に努め人件費の抑制を図る。

実質公債費比率: 算定方法(一般会計の公営企業債の取扱い)に変更があったため、前年度対比4.1%ポイント上昇したが、地方債の元利償還は平成16年度をピークに減少しており、新規発行も抑制していることから類似団体平均を下回っている。今後とも新規発行の抑制に努める。

人口1人当たり地方債現在高: 地方債の新規発行を抑制していることから現在高は年々減少してきているが、過疎化の進行により人口の減少が著しいため、1人当たり現在高は類似団体平均を上回っている。

人口1,000人当たり職員数: 町の面積が広大であり、また町営牧場や博物館の運営等、本町固有の施策により類似団体平均を上回っているが、過去5年間で30名(26%)の減員が図られたところである。今後においても事務事業の見直しや住民との協働等を推進して業務の効率的な運用により、退職者の不補充や職員の効率的な配置により適切な定員管理に努める。

人口1人当たり人件費・物件費: 類似団体で最も高くなっているが、これは町営牧場の運営に係る物件費が主な要因である。町営牧場の運営に係る物件費は約5億9千万円(町民1人当たり約11万円)と飼料高騰の影響もあり、多額になっている。現在、運営方法の抜本的な見直しを検討中であり、具体的な事業推進にあたっては、飼養頭数を適正規模へと縮小して、飼料費、燃料等の徹底したコスト削減を図っていく。また、その他人件費、物件費全般について、効率的な人事配置・行政運営を行い、経費圧縮に努める。